

高齢入院患者の心情とその介護

富山県農村医学会

越山 健二
市村 潤

I はじめに

人口高齢化の速度が高まるにつれ、高齢者の入院患者も増加しつつある。めぐまれた高度経済成長の中では、老後をいかにすごすか、どんな死を迎えるのか、時々脳裡をかすめる事はあっても、若いときはもちろん、健康なときはよそ事として深く考えないようだ。

私共のいま対象としている患者は、ねたきりでその診療は、排便、食事、入浴、着替えなどきわめて日常的な生活動作が不能（基本的日常生活動作、ADL）であり治療よりもむしろ介護が主体である人たちである。患者は過ぎ去った活力に満ちた青壮年時代を思い、悔恨や怒りの経過を了え、不安、恐怖、あきらめの境地から、孤独で淋しい日々をすごす人である。多くの患者は家族のいる所で過ごしたいという願望が強く、思い出すのは住み慣れた家であり、食べ慣れたみそ汁の香り、知人、友人の住む地域の思いである。

富山県農村医学研究会が先年行った65歳以上の高齢者の意識調査でどんな病気で、どんな死をのぞむのかの問いに対し、多くの人が「ころり」、「ほっくり」型の死をのぞみ、できる事なら家で畳の上で死を迎えたいという事であり、快復の見込みがなければ特別な延命治療はのぞまないという事であった。

高齢入院患者は、身心の障害の程度、性格、教養、職業歴、これまでの生活様式など個々別々である。孤独で淋しく苦悩の日々を癒すのは医療の背後を支える家族や地域の人々の

役割であり、医療従事者にもまして重要と思われ、いくつかの症例を提示して考えてみたいと思う。

II 症 例

例 1

83歳、女、半身不随、罹病、8年、ねたきり、ADL、全部不能、意志疎通あり、時に失見当、子供、5人（男4、女1）長男夫婦、魚店商、夫86歳で健康、長期間北海道で鮭、ます船で出稼ぎに従事、高齢だが自転車で毎日患者の好むめん類、果物を持参し、見舞い会話を交わす。若いときから妻に苦勞をかけ、子供は妻が魚の行商で育てた。そんな思いが、いま妻に奉仕する事でそれを生き甲斐としているようでもある。家族、長男、嫁、孫など時々来訪し、近隣知人も時折来訪。お盆、正月には帰宅

例 2

91歳、女、半身不随、痴呆症、入院5年、ねたきり、ADL、全郎不能、失見当（卅）、独語あり、夫20年前死亡、子供2人（男1、女1）1人戦死、遺族年金あり、定年退職した長男夫婦が多忙の中で殆んど連日昼食時に来訪し嫁が摂食介助、患者は駄菓子^{いぢ}を好み、それが唯一の楽しみ、家族の識別あり、発病前は厳しい姑であったという。家族以外の人には感謝の表現がある。血縁、地縁の来訪も頻繁。

例 3

88歳，男，慢性リュウマチ，罹病，8年，ねたきり，四肢の関節強剛，筋硬縮し変形著明，ADL，全部不能，意識，時に昏迷状，臍幹，四肢硬縮のため排便，入浴，着替え等介助は困難，妻，ディサービスに通院時見舞あり，嫁（50歳）が息子を伴って見舞う。お盆，正月に毎回来訪し二三日を家で過ごす，長男は鉄工所を経営，家族全員の協力介護あり。

例 4

80歳 女，左半身まひ，発病以来8年，ADL，全部不能，ねたきり，意識，明，夫，40歳時死亡，子供，4人（男2，女2）教師，長男夫婦も教師，土曜，日曜に来訪，花，果物，菓子をとどけ同室患者も見舞う。盆，正月には帰宅し，孫たちも協力，孫の絵や学業成績を持参連係が密である。精神的に安定し日々平穩。

例 5

77歳，女，不安神経症，軽度の痴呆症，夫，23年前死亡，子供，5人（男3人，女2人），ADL，全部可能，家業，印刷業，訴，退院し帰宅したい，長男は会社定年退職後家業を継ぐが妻と別れ再婚した。患者の退院をのぞまず，退院しても症状悪化し再入院をを繰り返す。女学校時代の友人が時折り来訪し談笑する。不定愁訴あり不安，苦悶顔

III むすび

上記5症例のうち，例1から例4は家庭や地域との連係協力が保たれ良好な状態であるが，例5は家庭に問題あり不幸な例である。

有史以来の急速な高齢化社会の対応についていま各方面で試行錯誤が行われている。老と死は，だれにも避けられないもので，特に老人医療は人口構成や費用の面からも緊急な対応をせまられており，国は現行の諸制度の見直し，整理合理化を目指し，老人医療の受け皿を一部家庭や地域に期待しその方向が示されてきた。輝かしい経済発展の陰で地域は過疎，過密化がすすみ，家庭は核家族化で家族数が少なく，夫婦共稼ぎが多くなり，家庭や地域はいちじるしい変貌をとげた。戦前にあった生，老，病，死，災害時や祭礼等に果たした村10部の機能は衰弱し崩壊したとの指摘もある。患者が希望し，国が要望する家庭や地域の果たす役割はますます困難な現況にあるが，今後医療マンパワーをはじめとする人や施設面で多くの共感を求め，効率的な連係，協力のもとに老化やターミナルケアを策定しなければならない。昭和62年の第22回日本医学会総会に示された21世紀への医療のテーマはサイアンスとアート，そしてヒューマニティであった。高齢入院患者の対応の基本となるものは，私共が失いかけている互助の精神であり，家庭や地域におけるヒューマニティの回復であると思われる。

参 考

- (1) 農研誌15巻 中高齢者の健康調査